



自然、まち、ひとをつなぐ

# みなべのかたち

みなべのかたち

みなべ町 町勢要覧

自然、まち、ひとをつなぐ

# みなべのかたち

発行：みなべ町役場  
発行年月：令和8年3月  
〒645-0002 和歌山県日高郡みなべ町芝742番地  
TEL：0739-72-2015(代)  
HP：<https://www.town.minabe.lg.jp>  
編集：株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所



自然、まち、ひとをつなぐ

# みなべのかたち

豊かな自然や歴史深い伝統、  
活気ある産業、潤いのある暮らしなど  
魅力ある「かたち」があふれるみなべ。

この様々な「かたち」が、  
今、そして未来のみなべのかたちを  
つくりだしています。

## ごあいさつ

日本一の梅の里みなべ町は、江戸時代から400年続く梅システムが評価され、世界農業遺産に認定をされています。自然とのつながりと先人の方々が守ってきた梅産業を中心に、みなべ町の歴史が今に続いていることを誇りに思います。

これからのまちづくりは都市にあるものを求めるのではなく、みなべ町にあるものを大切に、個性を伸ばしていくべきだと考えています。自然は時に脅威となり、人のつながりは時に障壁となりえます。しかし、それらにこそ人が幸せに生きるための本質的な豊かさがあると信じ、「人が減っても笑顔が増えるまち」を目指してみなべ町の魅力を次世代に繋げていきたいと思えます。



町長  
山本 秀平



未来のかたち

34

- 04\_みなべの誇り
- 16\_四季折々のみなべのかたち
- 38\_空から眺めるみなべのかたち

暮らしのかたち

24

活気のかたち

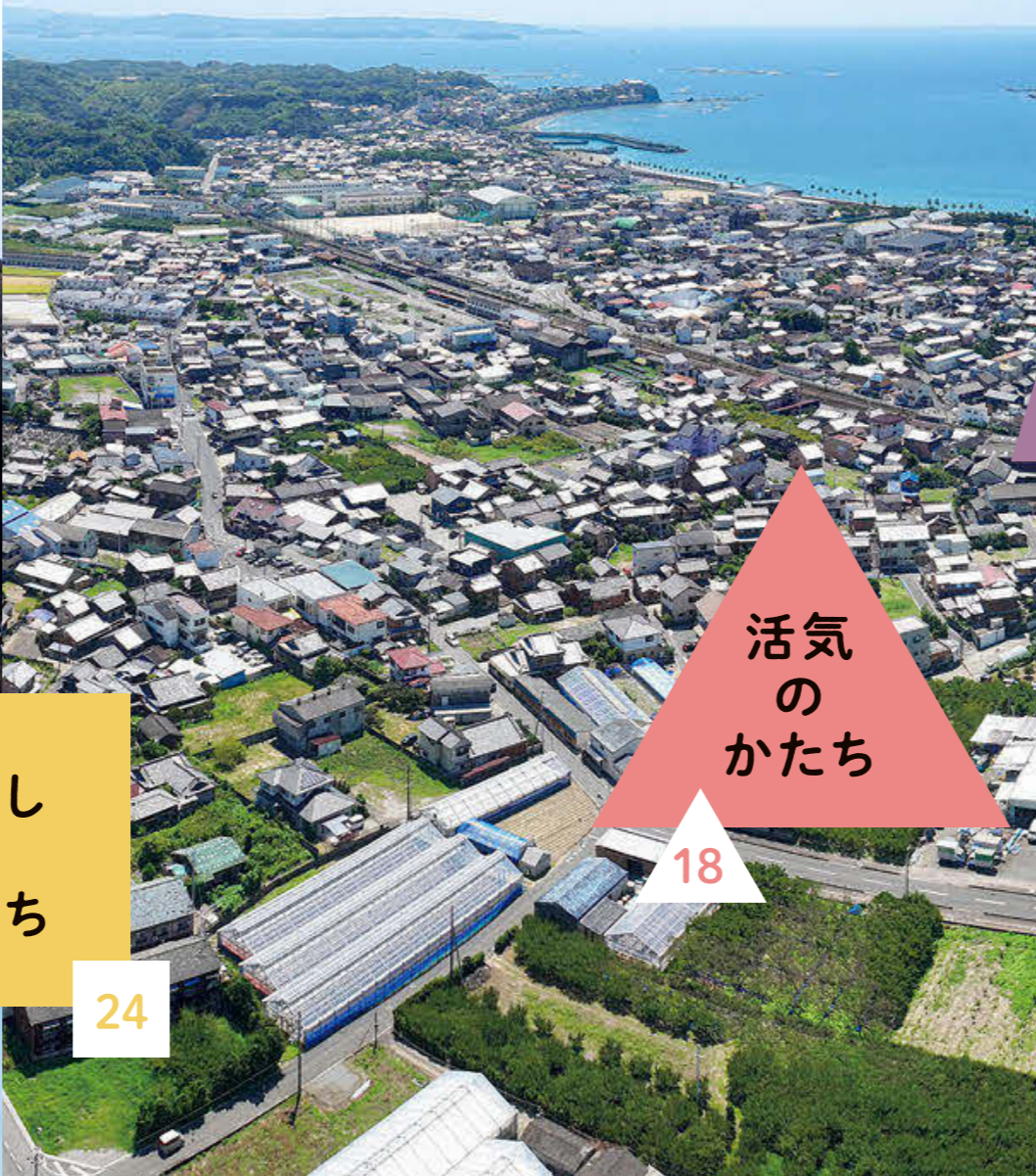
18

歩みのかたち

12

恵みのかたち

8



# みなべの誇り

## みなべ・田辺の梅システムとは？

「みなべ・田辺地域」では、年間約5万トン(令和4年・2022年)の梅が生産されており、日本国内の5割以上を占める「日本一の梅の生産地」です。

400年前からこの地域で受け継がれてきた、「みなべ・田辺の梅システム」が平成27年(2015年)12月、世界農業遺産に認定されました。

# みなべの誇り

日本一の梅の里みなべ  
地域で守られてきたみなべの誇りは、継承されています。



## 薪炭林

ウバメガシなどで構成された山頂付近の森林。次に育つ樹木を育てながら森林の更新を図る「択伐」によって、山を守っています。

### 梅システムのヒミツ

## ウバメガシの役割

ウバメガシは山崩れを防ぎ、地面に栄養を与えます。そのため、みなべ・田辺地域では「薪炭林を残すために、山全体を梅林にしない」という習慣が守られています。



## 梅林

山の中腹にある梅林は、薪炭林が地面に蓄えた養分を使って生育し、ミツバチにとって貴重な蜜の供給源となっています。

梅を中心としたこのシステムは、薪炭林、梅林、水田などによって構成。薪炭林を残し、斜面に梅林を配置することで、水源涵養や崩落を防ぐ機能を持たせています。それに加え、ミツバチとの共存によって受粉活動を行い、高品質な梅を生産しています。

この仕組みが、里山・里地の保全や生物多様性の維持につながり、高く評価されています。



# 世界に誇る みなべの 農業システム

### 梅システムのヒミツ

## ミツバチの役割

南高梅など、地域で栽培される多くの梅は自家受粉できないため、近くに植えた他種の梅で受粉します。人の手では困難なこの受粉作業にミツバチを活用しています。

## 水田など

薪炭林から梅林を通り水田に至る水の流れによって、多様な動植物の生態系維持と農作物の栽培につながっています。

## 収穫と加工の工夫

斜面にネットを張って集める独自のの方法によって、傷がなく美しい梅が収穫されています。また、ほとんどの梅生産者が一次加工まで行っています。



### 梅システムのヒミツ

## 「みなべ・田辺の梅システム」をもっと詳しくご紹介！

世界に誇る、みなべの農業システムを広く周知するために「みなべ・田辺の梅システム」特設サイトを開設。認定の経緯や仕組みなど、詳細を紹介しています。その他、後継者育成を目的とした、地域の子どもたちのための教材も作成しています。



## 世界農業遺産(GIAHS)とは？

国際連合食糧農業機関が認定する、伝統的な農林水産業や密接に関連する文化、生物多様性などを一体的に保全・継承していくための制度。国内では17地域が認定されています。

# みなべの誇り

## ニホンミツバチを守り梅を守る

ニホンミツバチを守る活動は、若手農家で構成されたみなべ梅郷クラブで行っていました。活動のきっかけは、平成30年(2018年)頃に、みなべ町でニホンミツバチが急激に減少したことです。

ミツバチの減少を防ぐためには、巣箱周辺の清掃や強い群をつくることなど、人の手による管理が必要です。そのため、令和2年(2020年)に30箱の巣箱をみなべ町内に設置。視察などを通して、設置から3年目にミツバチを増やすことができました。

梅とミツバチは密接に関係しています。ミツバチを守ることが梅を守るにつながります。

### 梅農家 中井 貴章さん

元みなべ梅郷クラブ プロジェクトリーダー。令和7年(2025年)3月に卒業しましたが、現在も梅農家として、みなべ町の梅づくりを支えています。

梅システムの未来を若者たちが担う

## 全国に広げたい 梅保全の取り組み

ミツバチを守り、梅を保全する活動は、巣箱づくりだけではありません。梅の耕作放棄地を活用して、ミツバチのエサやすみかとなる蜜源樹(ウバメガシなど)を植えています。この2つの取り組みが評価され、4Hクラブの全国大会で農林水産大臣賞を受賞しました。前年の大会でも梅郷クラブの別の方が受賞していて、2年連続で受

賞させていただきました。

ミツバチは増えているものの、以前の状態までは戻っていません。令和7年(2025年)3月に梅郷クラブを卒業しましたが、取り組みは続けていきたいです。また、ミツバチ減少はみなべ町だけではなく、日本全体の問題です。自分たちの取り組みを知ってもらい、「梅の友ミツバチ保存会」のみなさんと協力してミツバチと梅の保全を広げていきたいです。



第61回 全国青年農業者会議 地域活動部門で 農林水産大臣賞を受賞!



ニホンミツバチの巣箱を町内に設置



ミツバチのエサとなる蜜源樹の植樹



保全活動を伝える巣箱づくり体験教室

## みなべ町が取り組む 梅システムの活用

### 自治体SDGsモデル事業 みなべ梅ラーニングcommons

国によって選定された「自治体SDGsモデル事業」として、町民や町外応援団などと連携してSDGsを推進。町民の郷土愛醸成を大きな目標に、「みなべSDGsプラットフォーム形成」「みなべ梅ラーニングcommons」地域共創プログラム、「バイオ炭定量化事業」の3つに取り組んでいます。



### 地域共創プログラム

町内の中高生や大人、町外の大学などと協働し、地域の課題解決を探索・共創する場づくりに取り組んでいます。

## 恵みを生み出す 豊かな里山

みなべ町は豊かな自然に恵まれており、森林面積は7600haで町の約7割を占めています。森林には、水を蓄え育む働きや国土保全などの多面的な機能があり、まちや人、生き物を守る存在。そのためみなべ町では、手入れが行き届かない私有林の管理を町が担う「森林経営管理制度」に取り組み、森林保全につなげています。

世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺の梅システム」で重要な役割を果たす薪炭林を保全する取り組みも実施しており、紀州備長炭の原木となる広葉樹（ウバメ

# 潤いを生む 恵みの源

自然と共存するみなべ町には、薪炭林や集落が見られる豊かな里山風景が広がっています。恵みの源ともいえる山々がみなべを潤しています。

ガシなど)の植樹を行っています。町北部の高城・清川地域には山間の集落があり、棚田やため池などの良好な里山風景が残っています。その里山は人々の暮らしを支え、恵みをもたらす環境として、みなべ町にとってなくてはならない存在になっています。

## 島ノ瀬ダム

桜の名所として有名で、春には約500本のソメイヨシノが咲き誇ります。その開花に合わせて、地元有志が協力してこいのぼりを揚げています。



## 高城・清川地域の集落風景

南部川の上流部である高城・清川地域では、周りを囲む山々や段々に重なる棚田などが見られます。炭焼き文化と共に残る、昔ながらの里山の風景が広がっています。

## 環境省「重要里地里山」に 選定

様々な樹木で構成される薪炭林やミツバチとの共生、多様な生物が見られる水辺環境など、みなべ町の良好な里山環境が「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されています。

## ウバメガシの薪炭林

薪や炭の原材料となる木材を生産するための森林。ウバメガシをはじめ、カシやクヌギ、コナラなど様々な樹木で構成されています。



自然とまちを潤す  
恵みの流れ

みなべ町は太平洋に面しており、千里の浜や岩代の浜をはじめとした美しい砂浜海岸が続いています。一面に広がる海は、黒潮の恩恵を大きく受けており、熱帯・温帯地域両方の生き物を見ることができ、独自の環境が特徴。釣りや磯遊び、ダイビングなどで多くの人々が訪れています。

みなべ町の砂浜は、日本有数のアカウミガメの産卵地としても有名で、例年上陸が確認されています。関係団体や地域のボランティアによって調査が行われており、産卵の観察も受け入れています。また、町内には縦に貫くように南部川が流れており、その周辺にも良好な自然環境が形成され、春

になり水温が上がると、下流域では鮎の遡上が見られます。

里山から流れ、海へと広がるみなべ町の水辺環境は、多様な生き物が暮らす自然を保ちながら、人々が生活するまちにも潤いを与えています。

流れ、  
広がる潤い

里山からあふれる潤いは、南部川の清流にのって海へ。まちを流れ、大きく広がっていく自然の恵みがみなべ全体に潤いを与えています。



南部川



岩代の浜



本州最大規模  
アカウミガメの産卵地

みなべ町は全国有数のアカウミガメの産卵地で、特に千里の浜は本州最大規模を誇ります。周辺の岩代の浜などでも上陸が確認されており、ボランティアによって調査・保全に取り組んでいます。



吉野熊野国立公園に  
指定された良好な海岸環境

「吉野熊野国立公園」に指定されたみなべ町の沿岸部は、砂浜や海食崖などが連なり、藻場や小型サンゴ群集などが見られます。この豊かな海岸環境は、ボランティアの清掃活動によって守られています。



千里の浜

太平洋に面した長さ1.3kmの美しい砂浜。熊野古道紀伊路の中では唯一海辺を歩くコースです。

みなべを守り続ける  
神が棲む島

みなべ町の港からほど近い沖合に浮かぶ島・鹿島。この島は古代から人々に神が棲む島として崇められてきました。

鹿島への信仰が深まったのは、八代将軍徳川吉宗が紀州藩主であった宝永4年(1707年)。「宝永の大地震」が日本列島を襲い、大津波が沿岸の村々に甚大な被害を与えました。その時、鹿島から巨大な光の玉が現れ、大津波からみなべの郷を守ったと伝えられています。この翌年、神恩感謝の花火を村人が奉納し、現在も鹿島神社奉納花火祭として引き継がれています。

みなべの海に静かに佇む鹿島は、今もなお、まちと人々を守り続けています。



鹿島神社

みなべの沖合に浮かぶ「鹿島」に鎮座する鹿島大明神は、奈良時代以前に常陸国の鹿島神宮から勧請したと伝えられており、明治42年(1909年)に対岸の現在地に合祀されました。

今なお残る  
みなべの礎

海に浮かぶ神秘の島に浜辺を通る紀伊路と熊野九十九王子…  
まちの各地に残る、数々の歴史が  
今もみなべを支える礎となっています。



熊野九十九社の中でも古くて有名な王子社。現在の社殿は、江戸時代に再建されたもので、王子社の中では古い建物といえます。



熊野九十九社の一社として栄えた王子で、古代から中世にかけて歴代上皇や貴族、近世では紀伊藩主や田辺領主などが参詣しました。



建仁元年(1201年)に後鳥羽上皇が多くの品々を奉納するほどの大社で、地下には弥生中期の遺跡があり、様々な遺物が出土しています。

雄大な自然と  
人々の祈りが宿る道

平成16年(2004年)7月7日、和歌山県、奈良県、三重県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されました。紀伊山地の自然と人々の信仰心によって生まれた、文化的景観が評価された世界遺産です。  
町内を通る熊野古道は登録されなかつたものの、古代の人々が歩いた歴史が色濃く残っています。

名所を辿るマップで  
熊野古道を歩こう

みなべ町内には熊野古道が通っており、3つの王子社をはじめとした歴史的名所があります。マップには熊野古道周辺にある名所の紹介や詳細なルートが掲載されています。みなべ町の歴史を味わいながら歩いてみてください。



有間皇子結び松記念碑

有間皇子が謀反の罪で護送される途中、松の枝を結び歌を詠みました。若くしてこの世を去った皇子をしのんで、松と石碑が立てられています。



南部峠の地蔵像

南部峠は熊野古道の要地であり、峠を通る人々はこの地蔵に祈りを捧げていました。骨折に靈験があるとされ骨つぎ地蔵とも呼ばれます。



丹河地蔵の銀杏

樹齢およそ300年の大樹で、町内唯一の銀杏の木です。昭和49年(1974年)県指定名勝天然記念物に指定され、現在でもたくさんの実をつけます。

鹿島

古代より神の島として崇められた無人島。「みなべ」という地名は、島が3つの鍋を伏せたように見える「三鍋」という字が由来とされています。



鹿島神社奉納花火祭

# 受け継がれる 先人たちの伝統

みなべ町に受け継がれる、数々の伝統的な祭り。  
この地で暮らしを営んできた先人たちによって、  
夏の夜空を彩り、秋にはにぎやかな歓声が響きわたります。

毎年8月1日に開催される花火まつり。宝永4年(1707年)の大地震によって発生した津波から、人々を守った鹿島への神恩感謝が起源と言われています。



鹿島神社秋祭り



毎年10月第3日曜日に開催される祭りで、「埴田の神輿」や獅子舞、町無形民俗文化財に指定されている「南道の奴行列」、「芝崎のふとん太鼓」などが祭礼に参加します。

## 古くから伝わる みなべの伝統

みなべ町で開催される祭りは、古くから地域の先人たちによって伝えられてきました。その多くは文化財に指定されており、歴史的にも重要な伝統行事です。

祭りには、毎年多くの町民が参加しており、先人たちから大切に受け継いできた伝統が、現在もみなべに息づいていることがうかがえます。



高城天寶神社秋祭り

毎年10月第4日曜日に開催される祭りで、天狗のような面を被った「オニ」の奉納が見どころ。高城地区の人々に親しまれています。

競べ馬などが行われることから「馬祭り」としても知られています。平安から鎌倉時代の形を残す貴重な祭りとして県指定無形民俗文化財に指定されています。



東岩代八幡神社秋祭り  
西岩代八幡神社秋祭り

スポーツの日の前日に開催される両神社の秋祭りでは、小学校6年生以下の児童による子踊りをはじめとした様々な踊りが奉納されます。

県指定無形民俗文化財の「名之内の獅子舞」が奉納される祭り。何度か消滅の危機がありました。地域の人々によって守られています。



清川天寶神社秋祭り

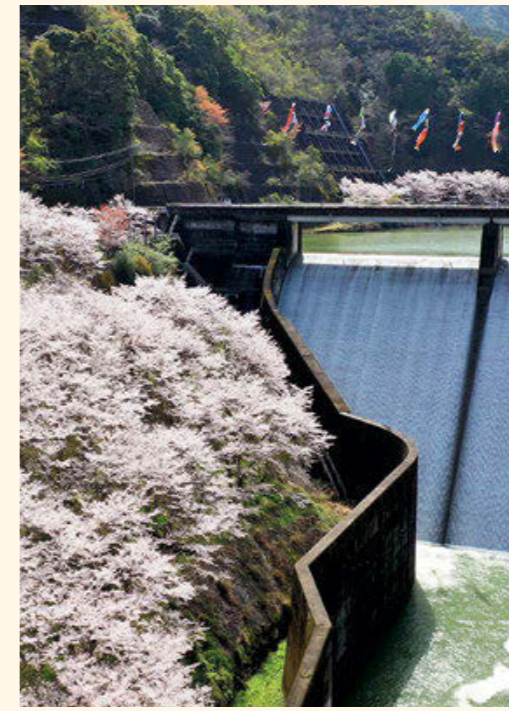


須賀神社秋祭り

冬  
WINTER



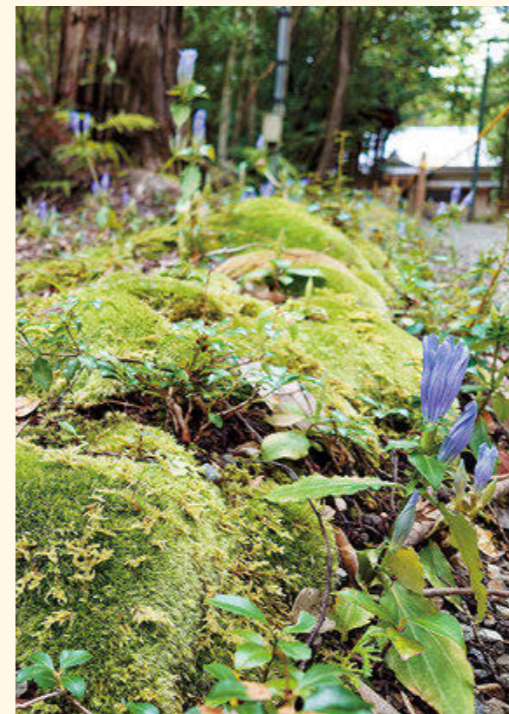
四季折々の  
みなべの  
かたち



# 四季折々の みなべのかたち



	11	8	4	1
13			5	2
14	12	9	6	
15		10	7	3



1.沈む夕日に映し出される鹿島 2.約500本の桜が咲く島ノ瀬ダム 3.春を告げるメジロ 4.梅の天日干し 5.千里で産まれた子ウミガメ 6.清楚に咲くアサマリンドウ 7.梅を守るミツバチ 8.海を照らすいさり火 9.山間を流れる南部川 10.秋を感じる稲のなる掛け 11.梅の花と特急くろしお 12.町内唯一の銀杏の木 13.力強い大書き初め 14.色付く紅葉 15.職人による薫だし



満開の桜や真つ青な海、色づく銀杏に可憐な梅の花。海・山・川に恵まれたみなべは、四季折々の美しい姿を見せてくれます。

秋  
AUTUMN



### うすいえんどう

和歌山県が日本一の産地であるうすいえんどうは、梅づくりの閑散期に栽培する農家も多く、梅に次いで栽培が盛んな農作物です。



### 花き

みなべ町西岩代周辺では宿根かすみそうなどの関西有数の産地であり、温暖な和歌山県では昔からかすみそうの栽培が活発に行われています。



### ミニトマト

みなべ町で収穫されるミニトマトは高糖度が特長で、「赤糖房(あかとんぼ)」や「優糖星(ゆうとうせい)」などの品種が栽培されています。



### みなべうめ振興館

世界に向けて梅に関する情報を発信する拠点施設。梅の歴史や特徴など学ぶことができ、梅干しなどのお土産も購入できます。



### 梅ワーケーション

地域の梅農家・加工事業者と連携した、梅収穫を行うワーケーション。参加者は非日常体験、梅農家は人手不足解消を実現でき、毎年多くの方が参加します。

# 活気を創り出す みなべの産業

南高梅や紀州備長炭の産地として有名なみなべ町。豊かな環境によって発展した特色ある産業が、まちの活気を創り出しています。

## 活気

### 恵みあふれる環境で育まれる農産物

温暖な気候と豊かな土壌に恵まれたみなべ町は、農業が基幹産業として発展しています。うすいえんどうなどの豆類や花きの栽培、そして梅の産地として全国に知られ、収穫量は全国の約25%を占めています。

みなべ町では、農業をさらに盛り上げていくために、商品開発やみなべの農産物に関する情報発信に取り組んでいます。

### 梅加工品

南高梅を使った加工品は梅干しだけでなく、梅ジュースやジャム、ゼリーなどのお菓子まで幅広く人気があります。



### 南高梅

みなべ町が収穫量日本一を誇る南高梅は、大粒で肉厚、香りがよいのが特長。みなべ町で誕生した最高品種の梅として、全国にその名を馳せています。

### みなべの梅で健康に!

みなべ町では20年以上にわたって、梅の効能を科学的に研究してきました。その結果、コラーゲンの分解を抑える物質や血糖値の上昇などの働きを阻害する物質が含まれていることが判明。梅には美や健康に関する効果があることが証明されました。

## 豊かな漁場を最大限に活かす

みなべ町の漁業は、旬や魚に合わせた漁法によって一年を通して魚が獲れることが特徴です。堺漁港は、生産拠点漁港と位置付けられており、多種多様な水産物の流通元。周辺地域で有名なウエやウツボも実はみなべ町が最も多く水揚げしています。これからも、みなべ町の漁業を続けるために、資源管理として伊勢海老の放流やヒラメ・クエの中間育成放流事業を行っています。また、漁業体験の受け入れや魅力発信によって、担い手づくりに取り組んでいます。

紀州日高漁業協同組合 副組合長理事  
玉置 清さん(左)  
みなべ町漁業振興協議会会長  
平野 泰巳さん(右)



### みなべ町の海の幸

みなべ町で水揚げされる魚種は、いわし、あじ、伊勢海老など約800種類に及び、一年を通じて様々な漁法が行われています。また、新鮮な魚を活かした水産加工も盛んに行われています。



## 紀州灘の黒潮による豊かな漁場

紀州灘に面しているみなべ町は、黒潮海流によって豊かな漁場となっています。

みなべの漁業は、いさり火漁をはじめとした多様な漁法を用いており、年間約1000トンを水揚げしています。近年では、育てる漁業として放流や中間育成事業に取り組んでおり、持続可能な漁業の実現をめざしています。

### 水産物の放流

みなべ町では、育てる漁業として魚の放流・中間育成を行っており、町内の子ども園の子どもたちによって、夏にはヒラメ、秋にはクエの稚魚を放流しています。



### いさり火漁

船上に明かりを灯し、群がってくる魚を網で獲る伝統的な漁法。初夏から秋にかけて、みなべ町の海原には火を灯した船が見られます。

受け継がれる伝統産業

森林が町の7割を占めるみなべ町では、林業として紀州備長炭の生産が盛んに行われています。

紀州備長炭の起源は平安時代と伝えられており、その製炭方法は昭和49年(1974年)に県無形民俗文化財に指定。現在まで伝統産業として受け継がれながらも、備長炭の新たな活用やさらなるブランドの確立、林業における後継者の育成などを進めています。



活気  
活気を創り出す  
みなべの産業

### 広がる活用方法! これからの備長炭

近年、備長炭を炭としての役割以外で活用する方法が注目。備長炭を使った風鈴などのオブジェや衣類なども作られています。他にも、脱臭剤や建材、食品添加物、繊維加工の分野などあらゆる方面で商品開発が進んでいます。



### 紀州備長炭

みなべ町の木でもあるウバメガシなどを使った備長炭。みなべ町で製炭されるものは、特に火持ちがよく火力も強いことから最高傑作として世界で評価されています。



### 紀州備長炭振興館

紀州備長炭の歴史や文化、伝統的な製造技術を知ることができる施設で、令和7年(2025年)9月にリニューアル。備長炭を使った珍しいグッズも販売しています。

### 職人技が光る、伝統製法

みなべ町でつくられる備長炭は県内でも最高品質だと言われています。それは、みなべ町の土壌とそこで育つ木の良さ。そして、窯の作り方やタイミングなど私たち職人の技術によって保たれているんです。当然、最高品質の備長炭をつくることは難しく、毎日が勉強。それが炭焼きの魅力でもあります。紀州備長炭を使いたいと思ってもらえるように、これからも勉強を続けて良いものをつくる。そして、炭焼きの技術をみなべで守っていきたいです。

みなべ町炭焼き職人  
原 正昭さん





### 国民宿舎 紀州路みなべ

三方を海に囲まれた岬の高台にあり、全客室から太平洋が望めます。地元食材を使った料理や絶景の露天風呂、宿の周辺ではマリンスポーツが楽しめます。



### 鶴の湯温泉

江戸時代から地元の人々に親しまれてきた山あいの天然温泉。源泉掛け流しの黄褐色の湯が特徴で、鉄分を多く含む疲労回復に効果があります。



### みなべ観光ガイド

自然や歴史、文化などをめぐるコースを案内するガイド。地元ならではの素朴な温かさと現地でしか味わえないみなべの魅力を感じることができます。



### 熊野古道紀伊路ウォーキング

熊野参詣へのメインルートである紀伊路を辿るウォーキングツアー。地域のガイドとともに歩き、説明を聞きながら紀伊路の魅力を楽しめます。

### 南部梅林

一目百万香り十里といわれる南部梅林は日本最大級の広さを誇ります。2月中旬ごろに梅の花が開き見頃を迎えます。



# 活気を創り出す みなべの産業

## 活気

ダイビング体験



梅ジュースづくり体験



薪割り・ピザ焼き・炭火料理体験



### ほんまもん体験

和歌山県の自然や文化、伝統産業などを学ぶ体験プログラム。みなべ町では、梅ジュースづくりやダイビングなど地域特性を活かした体験が揃っています。

梅の鑑賞や海遊び、歴史巡りや体を癒す温泉……。みなべ町では、年齢や性別に関わらず、春夏秋冬を通じてそれぞれのシーンを楽しむことができます。さらに近年では、梅ジュースづくり体験やダイビング、熊野古道ウォーキングなど参加・体験型の観光も展開しており、楽しみ方の幅が広がりを見せています。

地域の魅力を活かしたみなべ町ならではの観光が、まちの活気を生み出しています。

### 海・山・川を活かした みなべの観光

## 観光業

### 地域産業を支援 経済を活性化させる

みなべ町の商工業は梅加工業を中心に、製造業や卸・小売業で構成されています。

みなべ町商工会の組織率は約85%と、抜群の団結力で地域経済の活性化に大きく貢献しており、産業を盛り上げるイベントなどを開催。商工会などの関係団体とそれぞれの企業・店舗が協力し、みなべの産業を支えています。



あきんどカーニバル

### みなべ町商工会

みなべ町商工会は、経営相談や創業支援、補助金等、人材育成など、地元の中小企業に対する支援や経済活動を通じた地域活性化に取り組んでいます。



UME-1フェスタ in 梅の里みなべ



高城こども園

令和4年  
開園



みなべ愛之園こども園

### 町内こども園

町内に保育所型の公立こども園を2か所、幼保連携型の私立こども園を1か所開設。多くの方が利用できるように、エリアごとに開設されており、保育環境の充実につながっています。



上南部こども園

### わたしの暮らしのかたち

みなべ町は、子育て支援施設が充実していると思います。私も「ゆめはぐ館」をよく利用していて、子どもも気に入っています。地域の人も優しいですし、遊べる場所も充実していて、子育てしやすい環境だと思います。

花村 優里さん



### POINT

## 一体的な子育て支援

みなべ町では妊娠期から出産後、子育て期にかけて、子どもの年齢や状況に合わせた一体的な支援や助成を実施しており、子育てがしやすい環境づくりに取り組んでいます。

#### 妊娠期



**マタニティ&ベビーサロン**  
妊婦同士の交流の場で、保育士や保健師への相談や仲間づくりを支えています。



**こひつじランド**  
町内で子育て中の方々の集いの場で、月齢に応じたおもちゃを用意しています。

- ・電話相談
- ・妊婦訪問

#### 出産後



**赤ちゃん訪問**  
母子保健推進員が子育て家庭に訪問し、相談やアドバイスを行なっています。

- ・こんにちは赤ちゃん電話、訪問
- ・ブックスタート

#### 子育て期



**育児教室**  
月に1回、保健師や看護師、保育士などが身体計測や育児相談を受けています。

- ・おひさま広場
- ・離乳食教室
- ・すこやか相談



### こども家庭センター

妊娠・出産のこと、育児の悩み、その他子どもに関する相談を受け付けています。

### 子育て交流施設「ゆめはぐ館」

旧南部幼稚園を活用した施設で、充実した遊具やおもちゃ、中・高学年も利用できる学習室があります。また、保育士もいるため子育てに関する相談も可能です。



中・高学年の利用も可能



子育ての相談

## 子育て

### 充実の制度・施設で 子育てを支える

みなべ町の子育てでは、充実した支援が魅力。子どもと遊んだり、子育ての相談をしたりできる子育て支援施設やこども園などの施設と、妊娠期から子育て期にわたって切れ目のない支援・制度を提供しています。  
みなべ町では子どもたちが健やかに成長できるように、地域全体で子育てを支えています。

みなべの子育てでは行政や町民が協力しています。まちの未来を担う子どもたちを地域で育て、子育てしやすい環境を実現しています。

# まちで支える 子どもたちの成長

暮らし

# 教育



## のびのびと 学習に取り組める環境

子どもたちの健全な成長のためには、学習に取り組みややすい教育環境が大切です。  
みなべ町内には小・中学校が計7校あり、ICTやみなべを学ぶ地域学習など様々な学習に取り組んでいます。また、図書館や公民館などもあり、子どもだけでなくすべての町民が学習に取り組める環境が整っています。

## わたしの暮らしのかたち

みなべ町では地域体験学習を行っている、梅学習やミツバチの巣箱づくりなどに取り組んでいます。また、学校の規模が比較的小さいことを活かして、子ども一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな学習指導を行っています。

教育学習課 生駒 明広さん



南部小学校



上南部中学校

## 町内の小・中学校

町内に5つの小学校と2つの中学校があり、ICT教育やみなべ町の歴史や伝統を学ぶ地域学習などを実施しています。

## 中央公民館

大会議室や調理実習室、ステージがある視聴覚室など充実した設備がある施設で、町民活動などが実施されています。



## 町立図書館「ゆめよみ館」

児童書や雑誌、梅やウミガメに関する地域資料まで揃い、全国の図書館でも珍しいアンティークオルゴールが設置されています。



# 心も体も健全に 育つまち

子どもたちに寄り添った教育やスポーツに親しめる環境。みなべ町では、まちづくりを担う町民の心と体の健全な育成を進めています。



ヨガ

## 梅の里スポーツクラブ

住民主体でスポーツに取り組んでおり、現在は12プログラムが活動。スポーツを通じた地域のつながりづくりなどをめざしています。



ソフトテニス



サッカー



テーパーバティング



## 町民スポーツ大会

毎年11月に開催されるスポーツイベント。フットサルや野球などが開催され、数多くの町民が参加しています。

## 気軽に日常的に 親しめるスポーツ

みなべ町では、多くの町民がスポーツに取り組んでいます。

町内には様々な競技に対応したスポーツ施設や多くの町民が参加する団体、イベントなどが充実しており多様なスポーツに取り組むことができます。

スポーツに親しみやすい環境によって、多くの町民が気軽に楽しんでいます。



## 千里ヶ丘球場

海を臨み、美しい芝生を利用した球場。平成27年(2015年)に開催した、紀の国わかやま国体における軟式野球の会場にもなりました。



## 西本庄スポーツ広場

人工芝の多目的グラウンドやテニスコートが整備された施設で、フットサルやテニスなどを楽しむことができます。



# スポーツ



健康推進員

健康についての講習を受け、町民に対してミニドック健診など、健康促進に関する啓発活動を行っています。

健康



子どもから高齢者まで長く健康に過ごす

いきいきと長く暮らしていくためには、健康を保つことができる環境が重要です。みなべ町では、全世代の町民が健康に暮らし続けることができるように、健康についての啓発活動や高齢者の介護予防事業などに取り組んでいます。健康づくりの場を提供し、町民の健康な暮らしを支えています。

わたしの暮らしのかたち

私は特定健診やがん検診の声かけ、健康教室のお手伝いなどを行っています。町民の方々は、梅農家が多く長く働いているので、元気でいきいきしています。これからも元気を保つために、健康に関する話をもっと伝えていきたいです。

健康推進員 細川 教代さん



みんながいきいきと暮らす

生まれたときから高齢者まで人に寄り添うみなべ町では、まちに暮らすすべての町民が健康でいきいきと過ごせるような取り組みを行っています。

福祉



誰もが暮らしやすい環境を創り出す

みなべ町では、誰もがいきいきと過ごせることができる暮らしの環境づくりに取り組んでいます。

高齢者や障がいのある方などすべての町民が暮らしやすくなるように、様々な相談、支援を行っています。地域全体で互いに支えあう環境を整備することで、誰もが暮らしやすいまちをめざしていきます。



外出支援サービス



配食サービス

高齢者支援

1人での外出や移動などの生活が困難な高齢者に対して、移送用車両による送迎やコミバスなどで利用できる助成券の発行、お弁当の配達などの各種支援を行っています。



みなべ町社会福祉協議会 門脇 季奈さん

わたしの暮らしのかたち

みなべ町では、町民のみなさんと協力して福祉のまちづくりを進めています。ボランティアの推進や生活課題の相談、福祉活動や町民交流の支援などに取り組んでいます。これからも、ともに助け合いができるまちをめざしていきます。

ふれ愛センター

地域の保健・医療・福祉と綿密な連携を図り、利用者の心身の特性を踏まえた総合的なサービスの提供を行っています。



みんなで楽しく介護予防!



健康マージャン

認知症予防の一環の脳トレとして実施しており、多くの高齢者が楽しみながら取り組んでいます。

みなべふれあい体操

高齢者の介護予防や成人のメタボ予防を目的とした体操プログラム。自宅でも取り組めるように、DVDも配布しています。



地域包括支援センター

介護や福祉、医療などの相談に応じる高齢者の総合相談窓口。保健師や社会福祉士・主任介護支援専門員など専門スタッフが相談・支援を行っています。



はあと館

介護が必要な人に安心して暮らしてもらうために、利用者に合わせて相談や支援サービスを提供しています。

# 防災



# 安心・安全な みなべの暮らし

山と海に囲まれ、自然災害の危険と隣り合わせだからこそ、  
もしもに備えた施設や準備によって、  
安心・安全な暮らしの環境をつくりだしています。

## 安心・安全を実現する みなべの防災

災害への危機感が高まっている近年では、安心・安全な暮らしが重要になっています。  
みなべ町では、災害に備えて避難施設や防災備蓄倉庫などを整備。また、日頃からの防災訓練や防災学習などにも力を入れています。  
設備や体制によって町民の安心・安全を守っています。

## わたしの暮らしのかたち

みなべ町消防団では、分団ごとに火災訓練や町民への啓発活動などに取り組んでいます。町内の設備として、消防車やポンプを備えた車庫が地域ごとに20か所以上あります。町民の方には、自主防災の意識を持っていただきたいです。

みなべ町消防団副団長 萩野 庄寿さん



## 防災訓練

巨大地震を想定し、姿勢を低く頭を守り、動かないシェイクアウト訓練や高台への避難訓練などを実施しています。



## みなべ町消防団

町民有志によって構成された組織で、平常時は設備点検や放水訓練、災害時には消火や救助活動、避難誘導など町民を守るため第一線で活躍しています。

# 交通



## 交通網の整備で 暮らしを便利に

みなべ町では、便利な暮らしを実現するために交通網や公共交通の整備を行っています。  
町内にはJR紀勢本線や阪和自動車道が通り、町外への交通利便性を高めています。また、山間部のあるみなべ町での移動をしやすくするために、誰でも利用可能なコミバスが走っています。  
充実した交通によって町民の便利な暮らしを支えています。

## 防災拠点

みなべ町南道の高台に防災拠点を整備。こども園や防災備蓄倉庫が建てられており、一時避難場所や福祉避難所としても活用されます。



## 津波避難センター

南海トラフ巨大地震発生時の津波避難のために建設され、非常時の備蓄倉庫としての機能も有しています。



防災備蓄倉庫

## 大地震に備えて ハザードマップを作成!

近い将来に発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えたハザードマップを作成。もしもに備えて、避難場所などを確認しておくことが重要です。



## みなべコミバス

9人乗り2車両で運行するコミバスは、買い物や通院など、気軽に利用することができます。平野部と山間部の2ルートを運行しています。



### みなべ町立高城診療所

みなべ町広野に開設されている診療所で、内科、外科、小児科に対応。山間部である高城地域の医療を支えています。



# みなべの暮らしマップ

雄大な山々と谷間を流れる清流、人々の生活に調和する棚田や梅林、そして一面に広がる海。みなべの暮らしは、日本の原風景そのものです。

### みなべIC

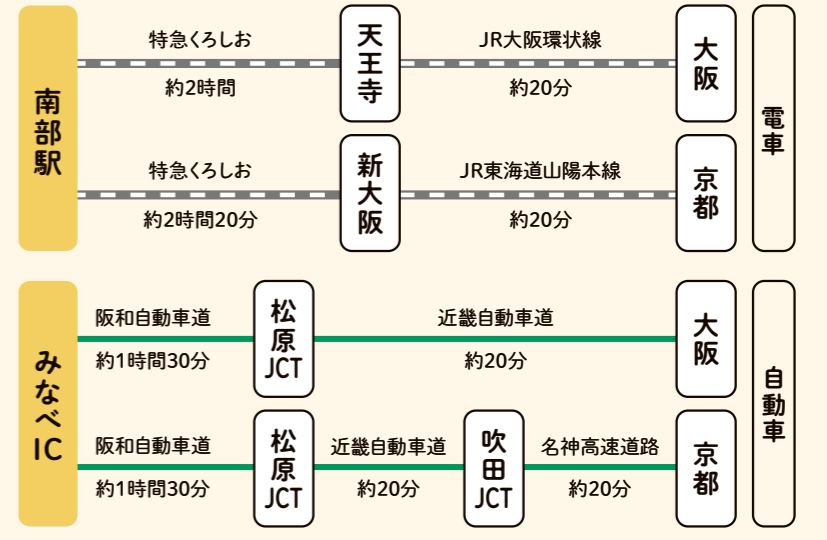
大阪から和歌山までを走る阪和自動車道のICで、終点である南紀田辺ICの一つ手前。町外や大阪へのアクセスを向上させています。



### みなべ町役場

みなべ町の中心部に位置しており、町民への行政サービスの提供はもちろんのこと、防災拠点としての役割も担っています。

## ACCESS



### 小目津公園

約7,500m<sup>2</sup>の広大な公園で、充実した遊具やきれいな芝生が魅力。ピクニックや海岸散策も楽しめます。



# 子どもたちが 思い描く みなべのかたち

みなべの梅を  
世界や全国に  
知ってほしい。

うめのはなが  
いつまでもきれいに  
さきますように。

子どもから  
おとしよりまで  
みんな仲がよく、  
思いやりのある  
あたたかいみなべ町に  
なってほしい

空気が  
澄んでいて  
自然豊かで快適に  
すごせる町

日本一  
じしん、つなみから  
守れるまち

みんなが  
笑顔で  
みんながやさしい  
みなべ

みんなが楽しくて  
広々と遊べる  
大人も楽しめる  
大きな公園があると  
いいな

梅やびんちょう炭や  
魚かい類が  
たくさんとれる  
みなべ町に  
なってほしい

今のみなべが  
すきなので  
今のみなべが  
ずっとつづいてほしい

みなべ万博を  
開いたら  
いいと思います

ぼくは、  
みなべ町を、  
産業がさかんな  
明るい町に  
したいです

伝とうぎょうじを、  
未来でものこし、  
みんなが仲よくらし、  
みんながみんなを  
助けられるように  
なってほしい

農業が  
もっとさかんになって  
もっと「みなべ町」に  
住む人が  
増えてほしい

みんなが  
来たくなるような  
大きなお店が  
できたらいいな

たくさんの  
みんなの思いを  
大切にしたいね

みんな  
みなべ町が  
好きなんだね!

## 未来を担う 子どもたちの思い

町内の小・中学校を対象に、未  
来のみなべ町について考えてもら  
いました。集まった意見は合計  
400件以上。自然やまちなみ、  
人との関わりなど、様々な意見が  
ありました。未来を担う子ども  
たちからの意見は、みなべ町の未  
来を考える重要な視点です。

みなべ町がこれまでに培ってきたまちの姿を受け継ぎ、  
これからのみなべを担うのは子どもたちです。  
子どもたちが思い描くのはどんな未来でしょうか。

他にも  
たくさんの意見が  
集まりました!



# 海・山・川の恵みの中で人が輝く快適なまち



基本目標

## 1 緑豊かで快適なまち

### ① み・やま・かわの自然とともに生きる

豊富な自然を守っていくために、自然環境の保全をはじめ、自然と共生した快適な住宅環境の構築などに取り組みます。



基本目標

## 2 永く住みたい魅力あるまち

### ② ばえた時から高齢者まで人を大切にする

切れ目のない子育て支援や充実した教育環境、高齢者サービスの充実など、すべての人が暮らしやすいまちをめざします。



基本目標

## 3 便利・安心・安全なまち

### ③ のぞみに沿った暮らしの環境を整える

交通整備や防災・防犯対策によって、すべての人が自由に生活できる、便利で安心できる安全なまちづくりに取り組みます。



基本目標

## 4 町民参画と官民協働のまち

### ④ まちはみんなで元気にする

町民が参加しやすい行政づくりに取り組み、行政主導ではなく、町民とともに築き上げていくまちづくりを進めています。



基本目標

## 5 うめ世界一の元気なまち

### ⑤ ちから強いなりわい 生業を育てる

世界農業遺産の「みなべ・田辺の梅システム」や全国的なブランド力を活用し、梅を軸とした産業・観光の振興に取り組みます。



みなべ町では未来に向けて「みなべ町長期総合計画後期基本計画」を策定し、まちづくりを推進しています。

# 未来に見据える みなべのかたち

みなべ町では未来に向けて「みなべ町長期総合計画後期基本計画」を策定し、まちづくりを推進しています。海、山、川などの自然資源があるみなべ町は、それらの特性を活かした産業や人の交流があるまちです。その特徴を守りつつ、発展させていくため、めざす将来像に「海・山・川の恵みの中で人が輝く快適なまち」を掲げています。将来像実現のために5つの目標を定めて、未来のみなべのかたちを見据えたまちづくりに取り組んでいます。

### みなべ町の課題

#### 少子高齢化 人口減少

2060年には町の人口が5,715人になると推定されており、労働力不足や少子化による教育環境の変化などが懸念されています。

#### 産業振興

豊かな自然を持つみなべ町は、農林水産業が重要な産業。梅を中心とした農林水産業と観光業を連携させた、総合的な産業振興が重要です。

#### 次世代の育成

みなべ町にとって、未来を担う子どもたちを育てることが非常に重要です。町内外で活躍できる子どもたちや後継者の育成が求められています。

#### 町民交流の推進

町民同士がふれあえる場づくりを積極的に行うことによって、地域のコミュニティ活動などで町民同士での交流を深めていくことが重要です。

#### 安心・安全のまちづくり

人々の防災・防犯意識は高まっており、安心して暮らせる環境が求められています。災害や防犯対策などを重視したまちづくりが必要です。

# 空から眺める みなべのかたち

空からみなべを眺めると、  
たくさん魅力が見えてきます。  
海や山などの自然と歴史に囲まれ、  
活気ある産業と人々によって潤う暮らし…  
あちこちにあふれる  
様々な魅力がつながりあって  
「みなべ」というひとつのまちが、  
形づくられています。

上空から  
みなべ町を  
見てみよう



## 町の花 梅

みなべ町が日本一の生産量と品質を誇っており、2月から3月にかけて紅白の可憐な花を一面に咲かせます。



## 町の木 ウバメガシ

緻密で硬く、丈夫な性質を持つカシ科の常緑高木。紀州備長炭の原木として大切に育てられています。



## 町の鳥 うぐいす

体長15cmほどのウグイス科の鳥で、「春を告げる鳥」とも言われており、町内の里山にも生息しています。



## 町の魚 いわし

日本沿岸に広く生息しており、町で最も水揚げが多く、夏の風物詩でもあるいさり火漁でも獲られています。

